

# ぼうさいこくたい 2025 in 新潟



語り合い  支え合い

～新潟からオールジャパンで進める防災・減災～

日程：2025年12月11日(木)  
第4回 現地情報共有・連携会議

内閣府 政策統括官（防災担当）付  
参事官（普及・防災教育・NPOボランティア連携担当）付



## 大会趣旨・大会テーマ

【大会趣旨】「自助・共助」、「多様な主体の連携」及び「地域における防災力の向上」を促進するため、国民の防災意識の向上、災害に関する知識や経験等の共有、防災に取り組む方々の連携構築を図る。

【大会テーマ】語り合い・支え合い ～新潟からオールジャパンで進める防災・減災～

【大会概要】(日時)2025年9月6日(土)・7日(日)

(会場)朱鷺メッセコンベンションセンター(新潟市)

(実績)出展団体数:約470団体、現地来場者数:約1万9千人

※愛子内親王殿下が9月7日(日)に御臨席され、ボランティア関係2セッションを御聴講

(御聴講セッション)「災害福祉支援 ～令和6年能登半島地震の取り組みと課題、今後の展望～」(主催団体:災害福祉支援ネットワーク中央センター)  
「能登半島地震の事例から、支援で目指す姿を考える」(主催団体:全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD))



## 内閣府主催セッション

オープニングセッション ・坂井大臣による挨拶 ・地元出身歌手や防災音楽ユニットによる演出 等

ハイレベルセッション ・学識経験者や地元関係者によるパネルディスカッション  
(テーマ:中越地震等と復興・災害への備え)

クロージングセッション ・地元高校生登壇の特別企画 ・大会総括 ・鳩山副大臣による挨拶 等

## 他のプログラム例

### ○セッション

特定のテーマについて有識者等が議論

### ○ワークショップ

カードゲームや、ボードゲーム、かるた等、来場者に参加いただき、楽しく防災を学んでいただくプログラムを実施



セッションの様子



ワークショップの様子

### ○屋外展示(テント・車両)

災害用トイレや、災害医療トレーラー、キャンピングカー、地震体験車、救助関係車両等を展示



車両展示

### ○ブース展示・パネル展示

各団体等の活動をブースやパネルで紹介

### ○オリジナル企画

出展タイプに拘らない自由な出展形態



ブース展示



## 集計結果

### 【現地来場者数】

・ 合計18,817人

9月6日：9,010人

9月7日：9,807人

\* 会場内3地点において、目視にて測定。

### 【オンライン視聴者数】

・ 合計13,244人

9月6日：7,719人

9月7日：5,525人

	9/6(土)	9/7(日)	
09:00～10:00	1156	09:00～10:00	1576
10:00～11:00	1079	10:00～11:00	2249
11:00～12:00	1109	11:00～12:00	1623
12:00～13:00	1255	12:00～13:00	1627
13:00～14:00	1414	13:00～14:00	1190
14:00～15:00	1322	14:00～15:00	1017
15:00～16:00	863	15:00～16:00	525
16:00～17:00	619		
17:00～18:00	193		
合計	9,010		9,807

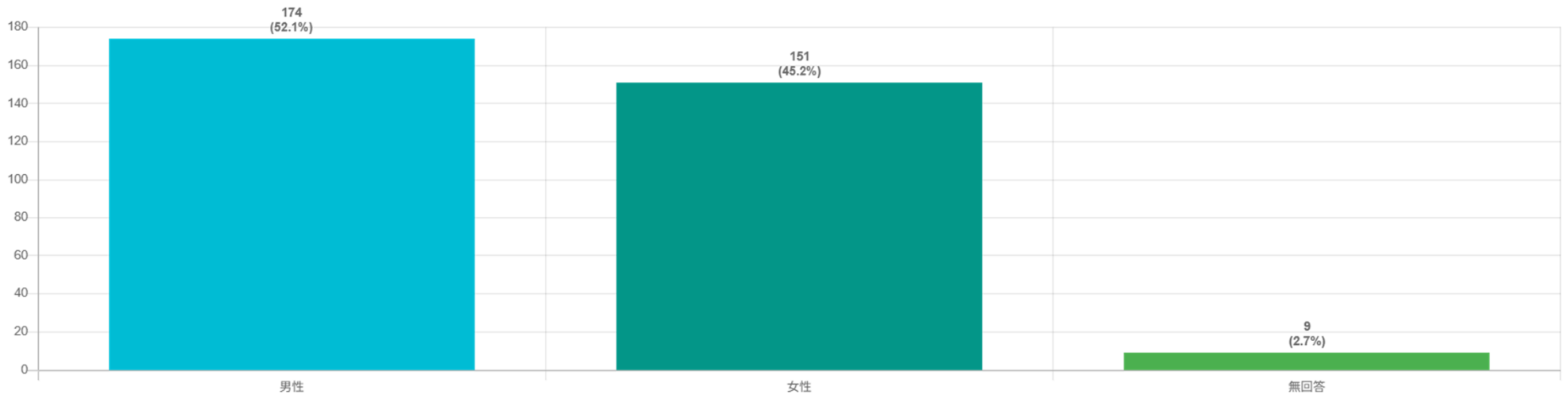


## 【参加者アンケート回答数】

・ 合計：335件                      (用紙回答：139件、オンライン回答：196件)

### Q1 ①性別

回答数：334 未回答：1





## Q2 ②年齢

回答数：335 未回答：0

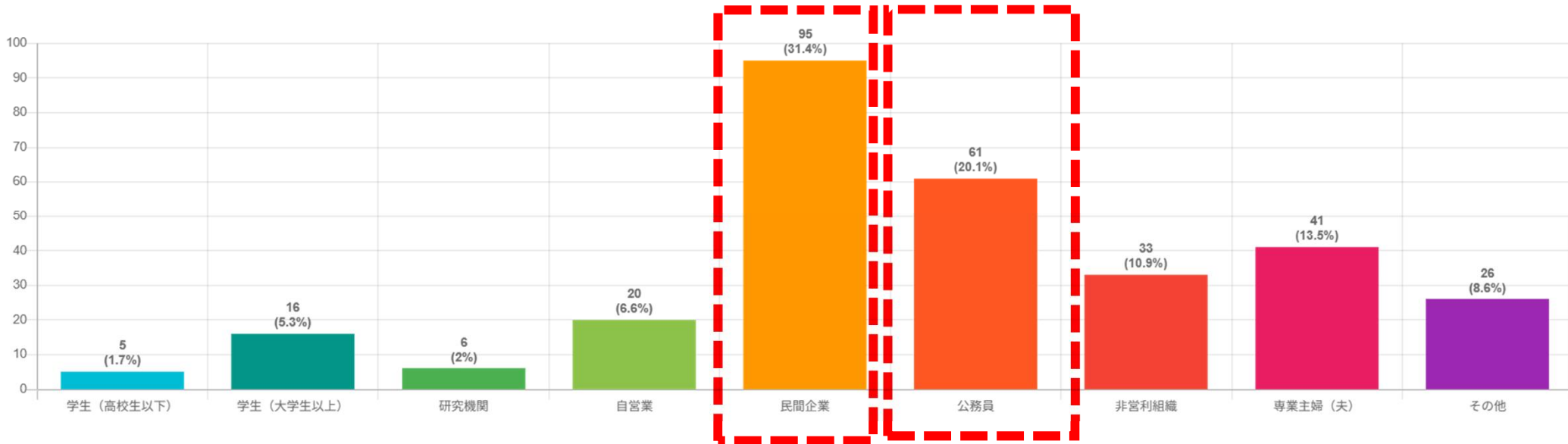


50代が最多



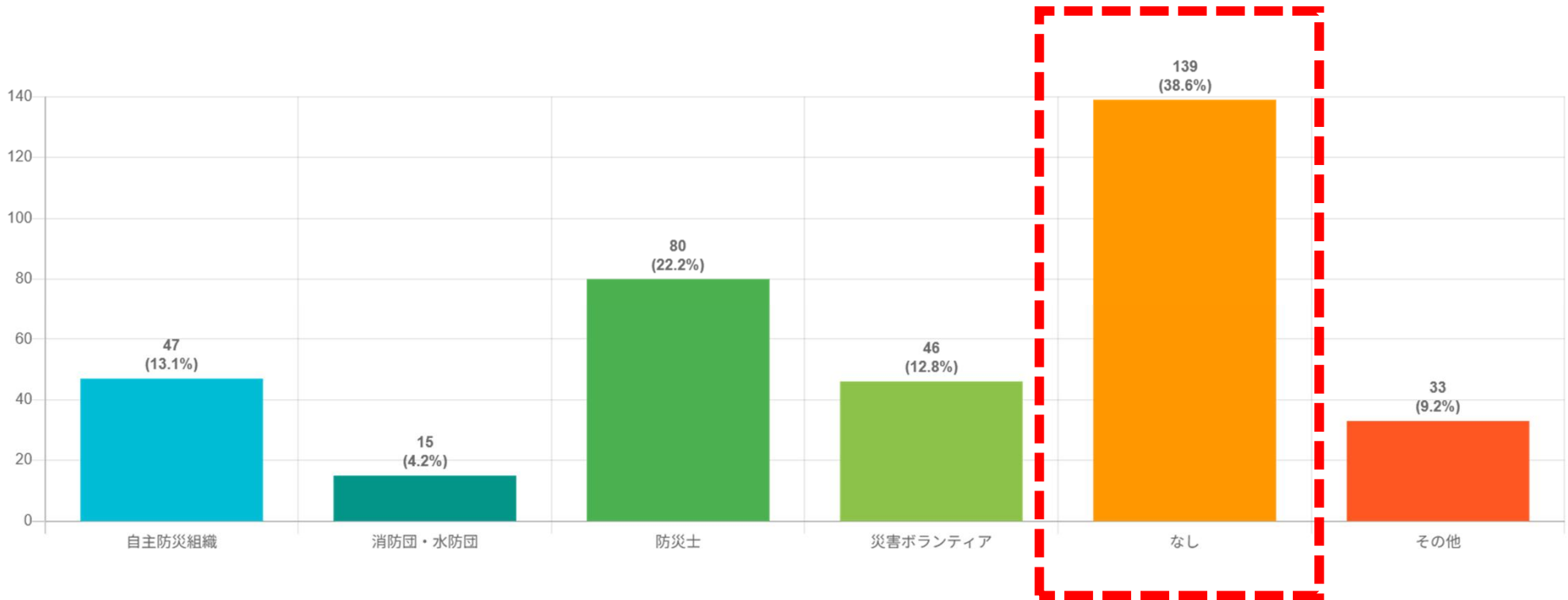
## Q3 ③所属

回答数：303 未回答：32





## Q4 ④ 普段の防災活動(複数回答可) 回答数：304 未回答：31

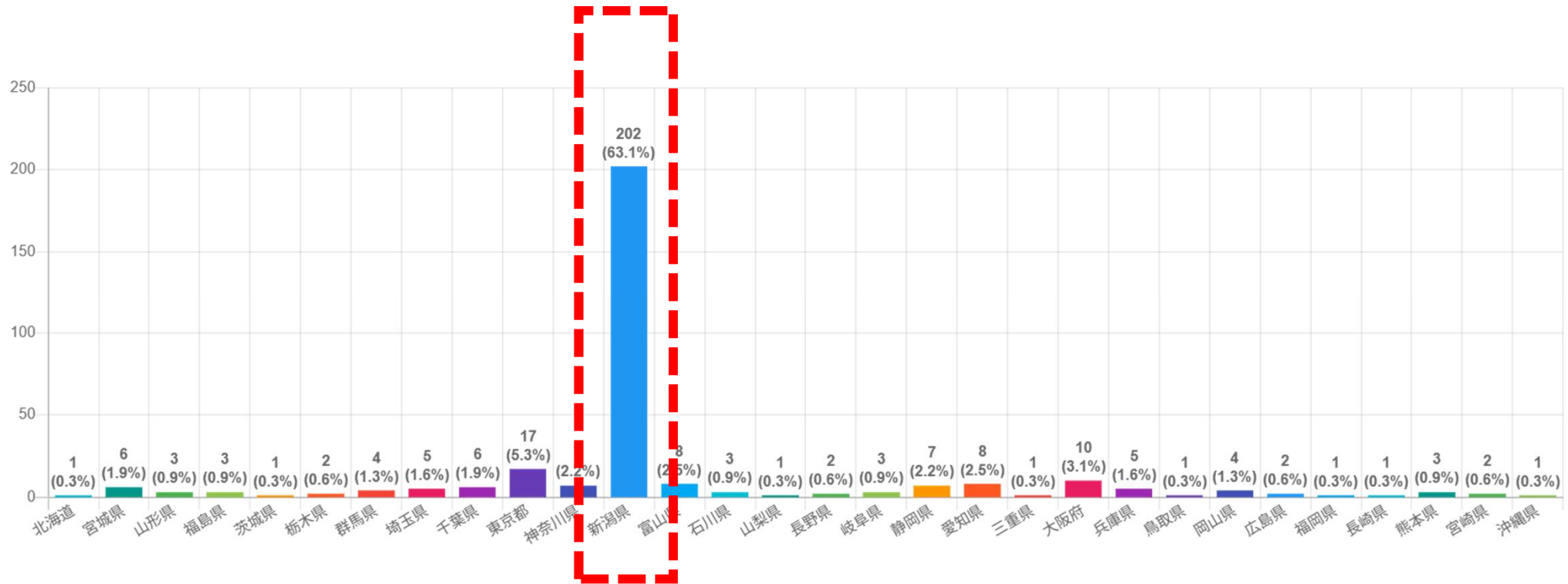


**未経験者が最多**



## Q5 ⑤都道府県

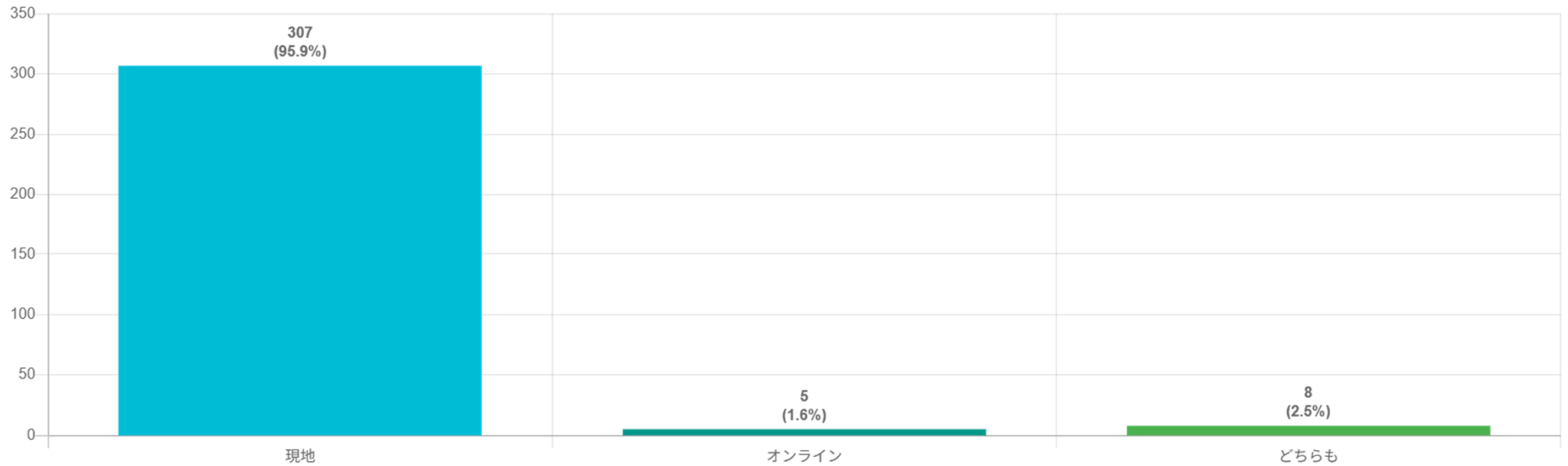
回答数：320 未回答：15





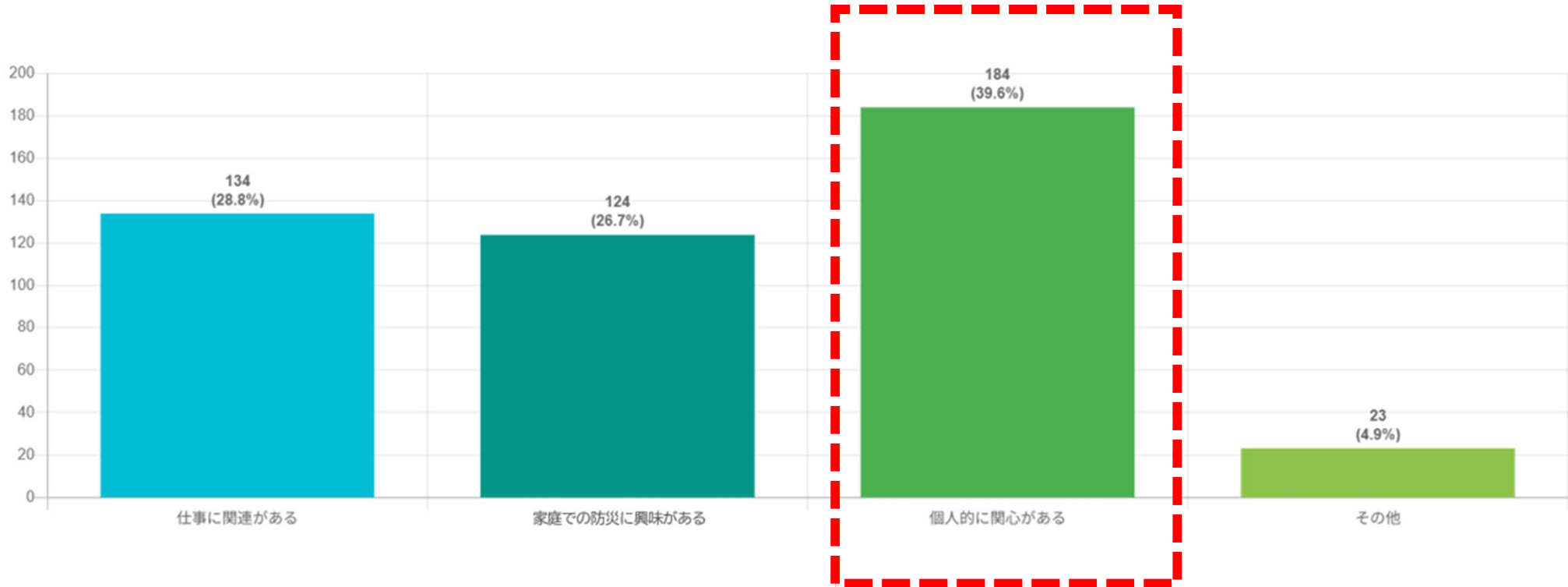
## Q6 ⑥参加方法

回答数：320 未回答：15





## Q7 ⑦参加理由(複数回答可) 回答数：322 未回答：13

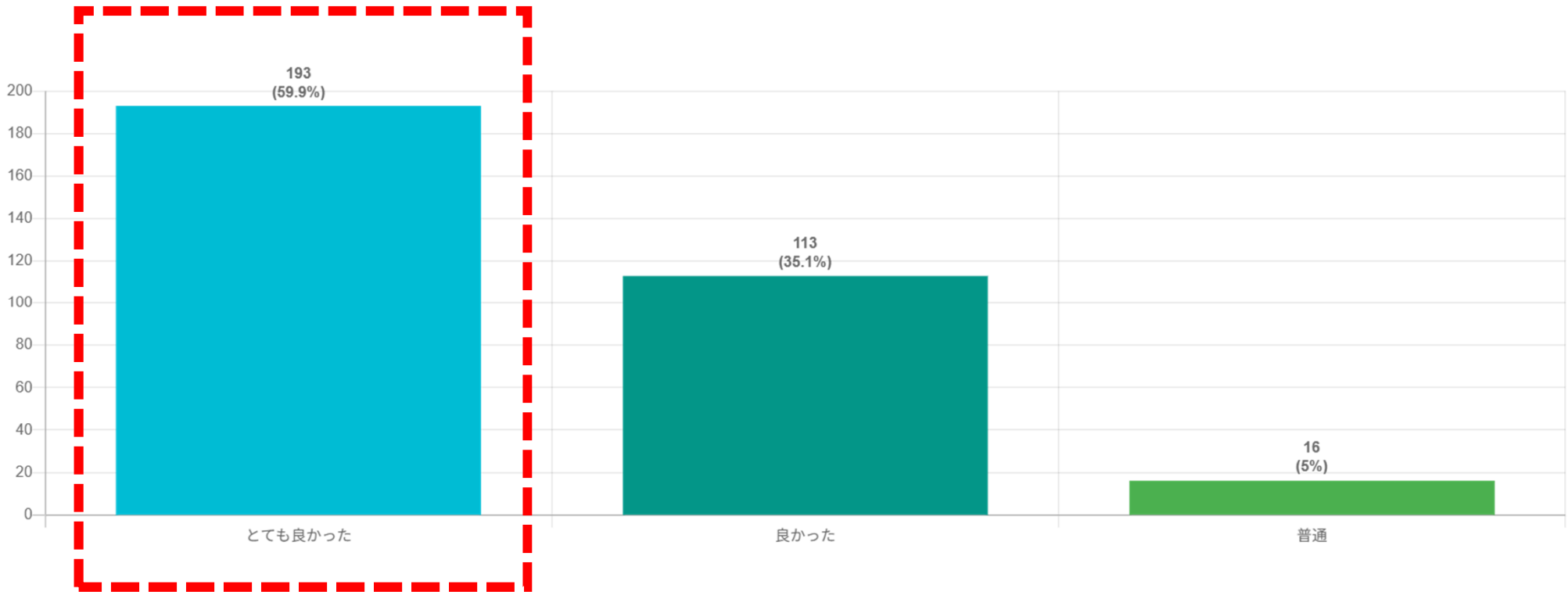


個人的な関心が高い



Q8 ⑧本大会に参加した感想に最も近いものを、次から1つ選んでください。

回答数：322 未回答：13

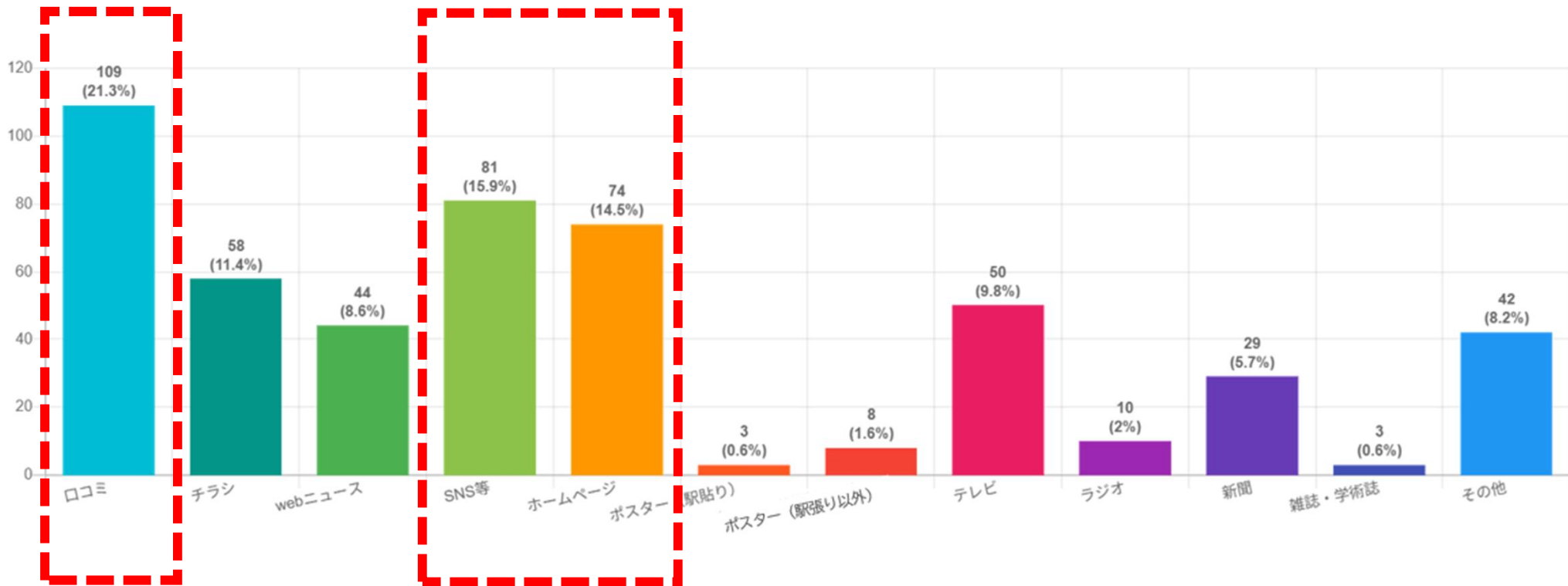


95%が「良かった」



Q9 ⑨ 今回のイベントを何でお知りになりましたか。(複数回答可)

回答数：322 未回答：13

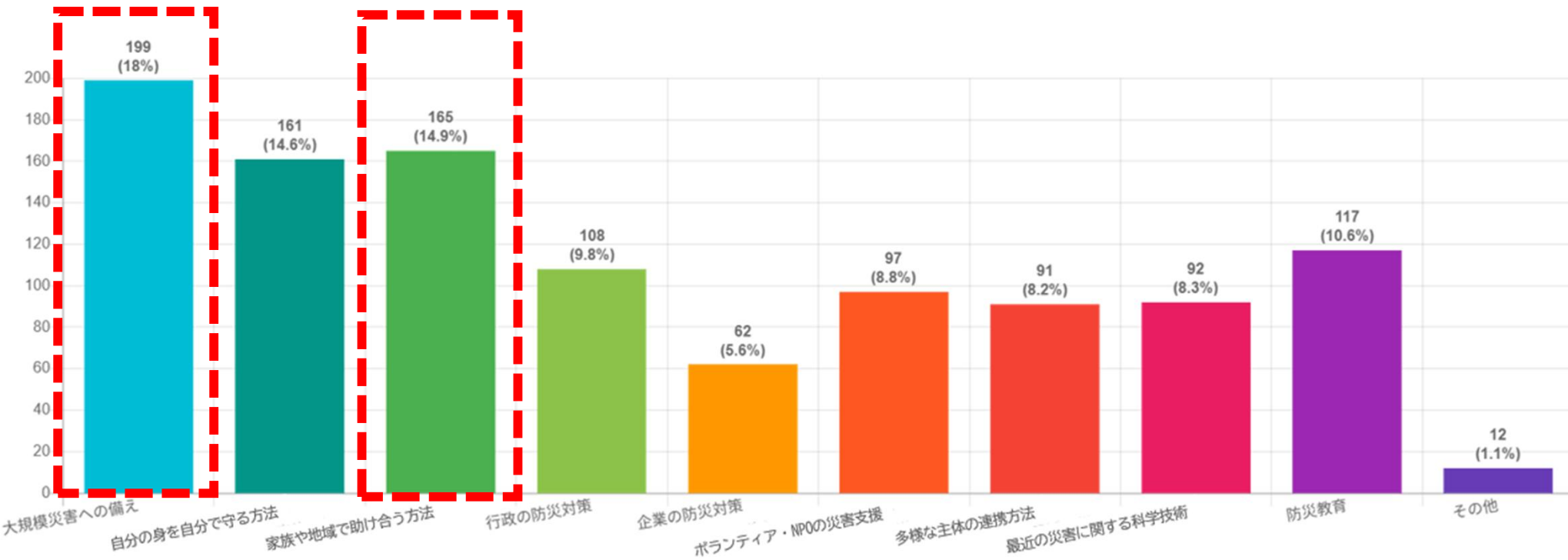


**口コミが最多**



Q10 ⑩あなたがこの大会で学びたかったことは何ですか。(複数回答可)

回答数：329 未回答：6

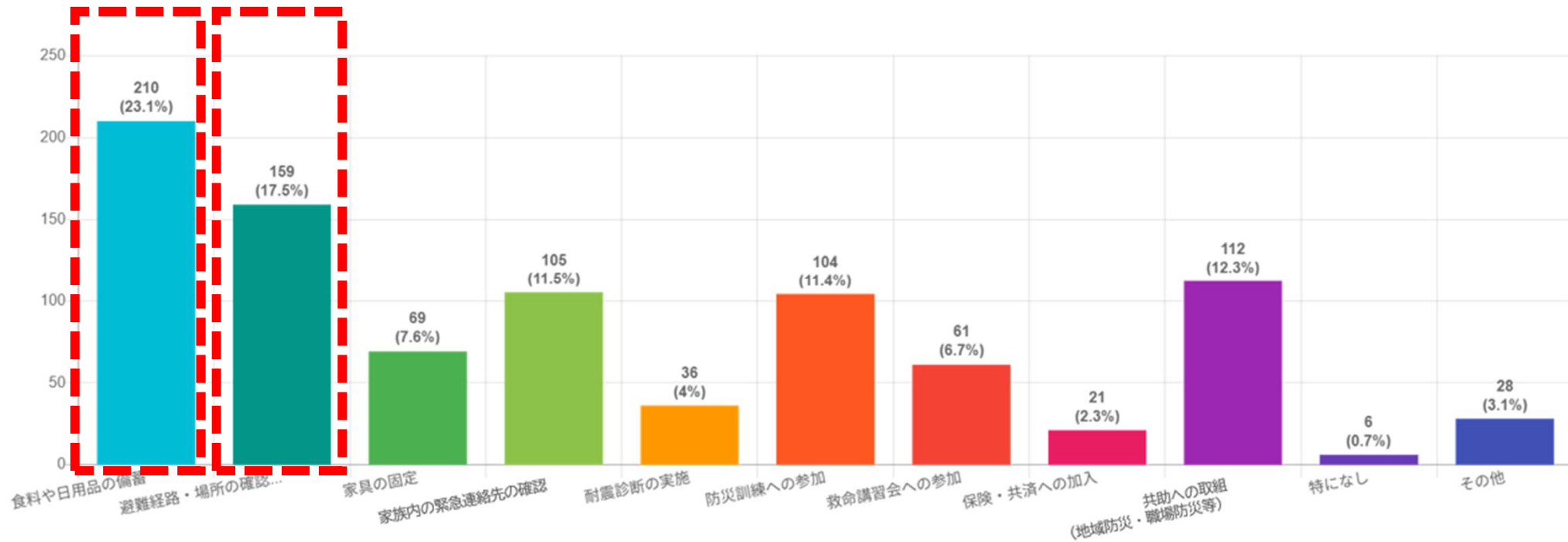


自助・共助につながる



Q11 ⑪あなたが今回の大会を踏まえて今後実践したい事を教えてください。(複数回答可)

回答数：322 未回答：13



**自助に直結**



## 集計結果

### 【出展者数】

- ・ 合計：2,562人
- \* 出展者パスの配布枚数から測定。

### 【出展数】

- ・ 合計：471団体

### 【出展数】

セクション	52
オンラインセクション	10
ワークショップ	21
ワークショップオンライン	5
ブース	176
ブースオンライン	6
パネル展示	130
屋外展示	65
出展オリジナル企画	6
合計	471



ブース出展の様子

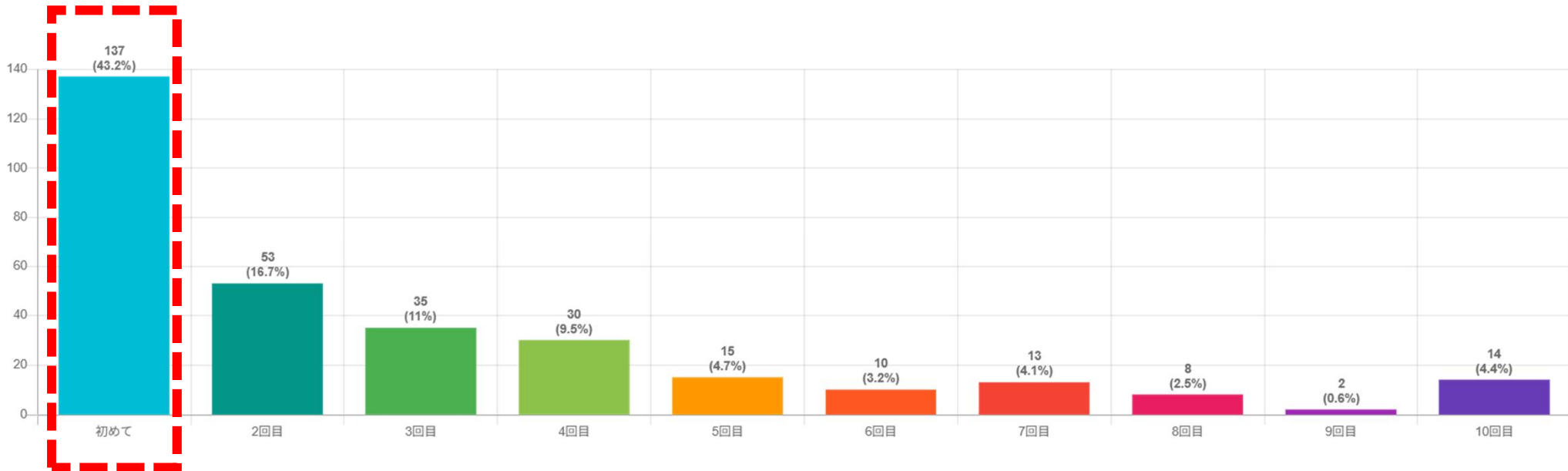


## 【出展者アンケート回答数】

・ 出展者：328件

Q1 ① ぼうさいこくたいへの出展は何回目ですか。

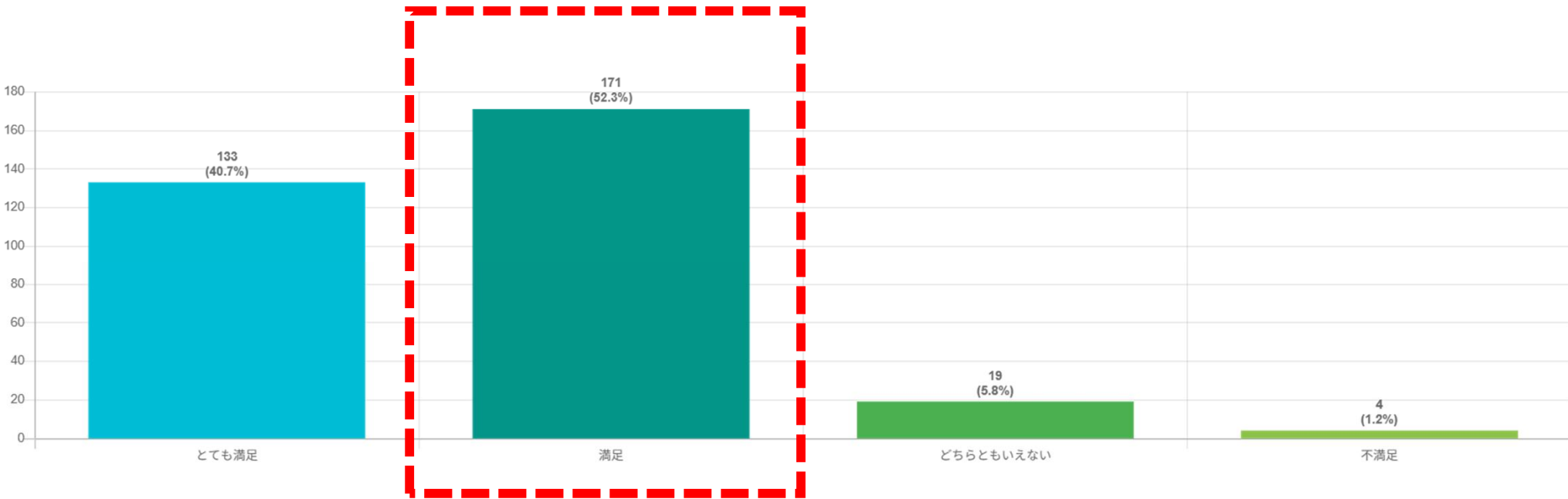
回答数：317 未回答：11



**初めてが最多**



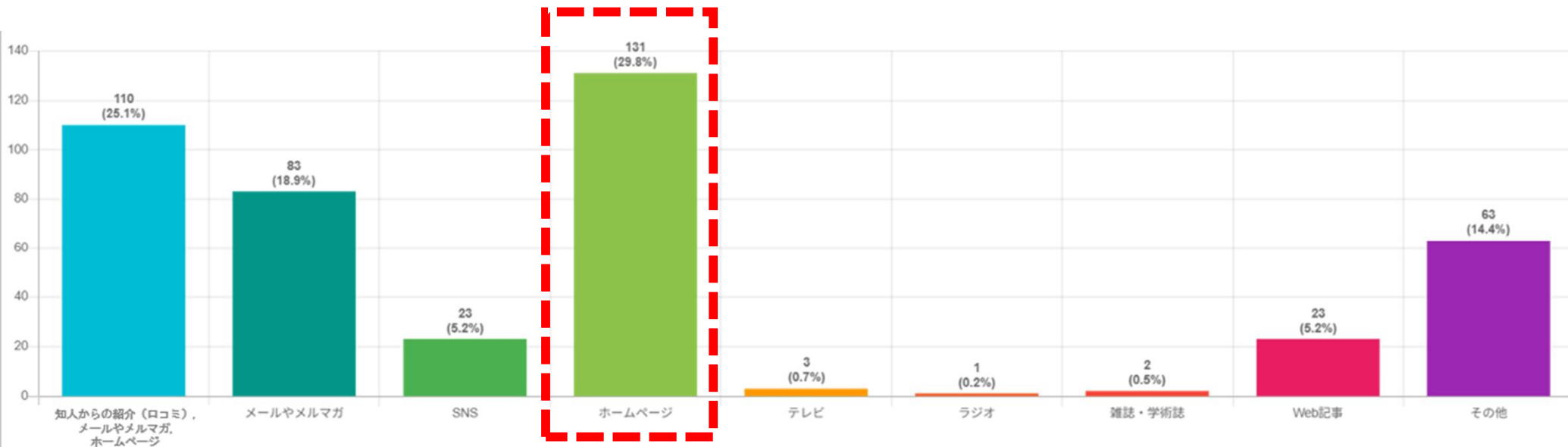
Q2 ②本大会に参加してみて、満足しましたか。  
回答数：327 未回答：1



**90%以上が満足**

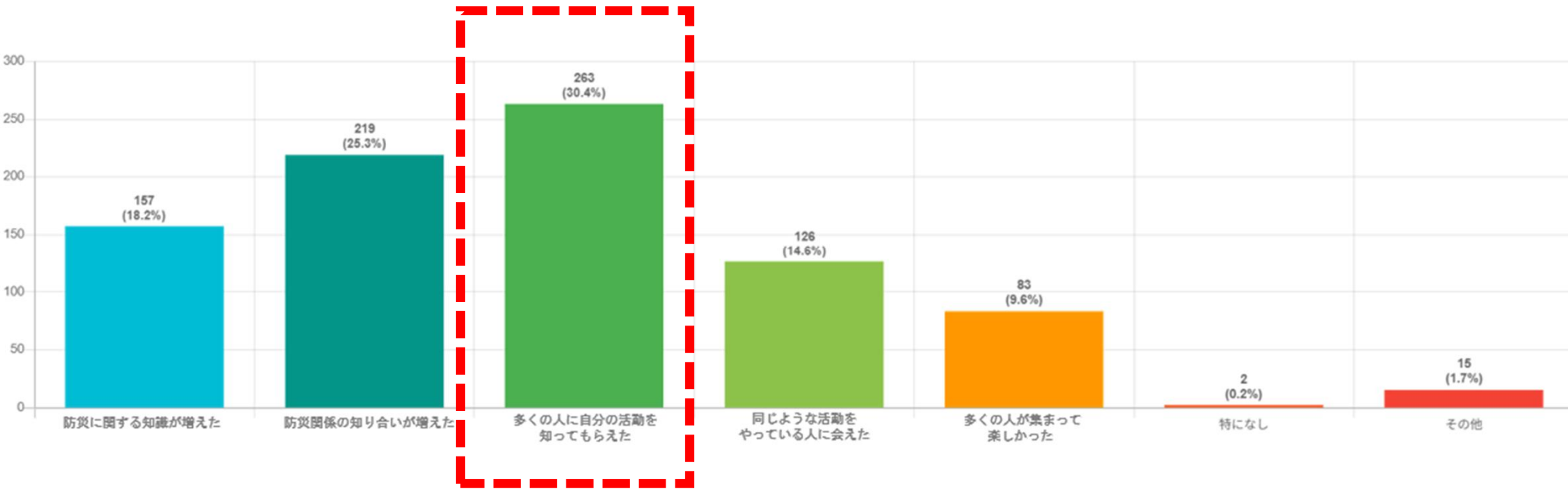


Q3 ③出展者申込に当たり、どこから募集情報を入手しましたか。(複数選択可)  
回答数：317 未回答：11





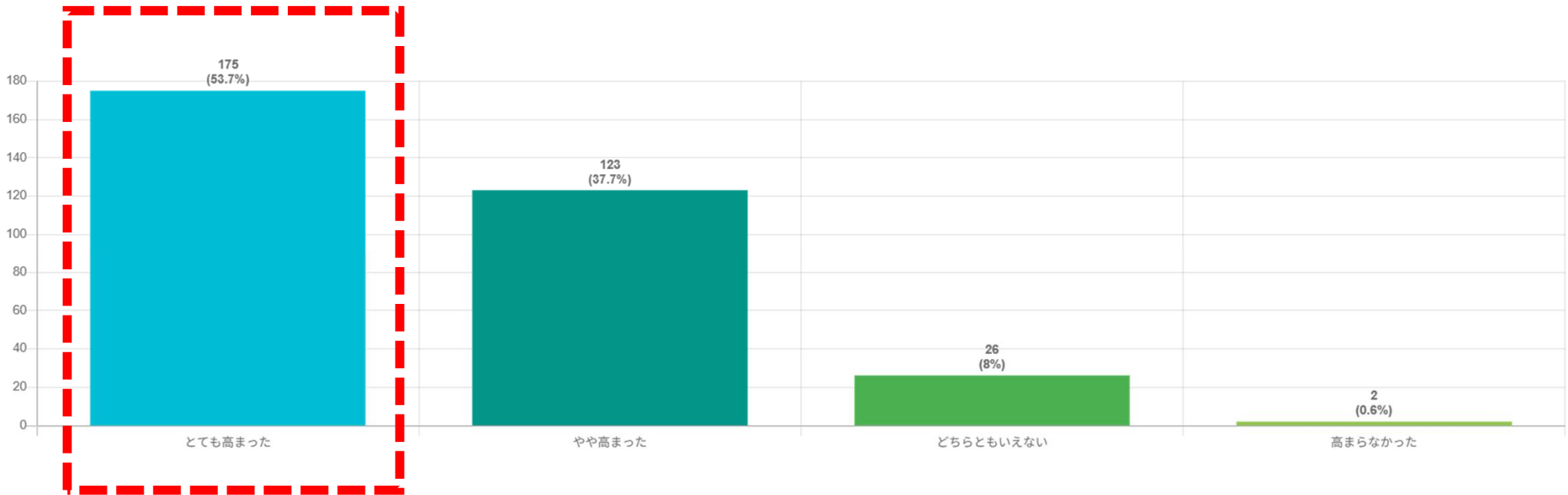
Q4 ④ 出展して良かったことを教えてください。（複数回答可）  
回答数：328 未回答：0



**日頃の活動の情報発信**



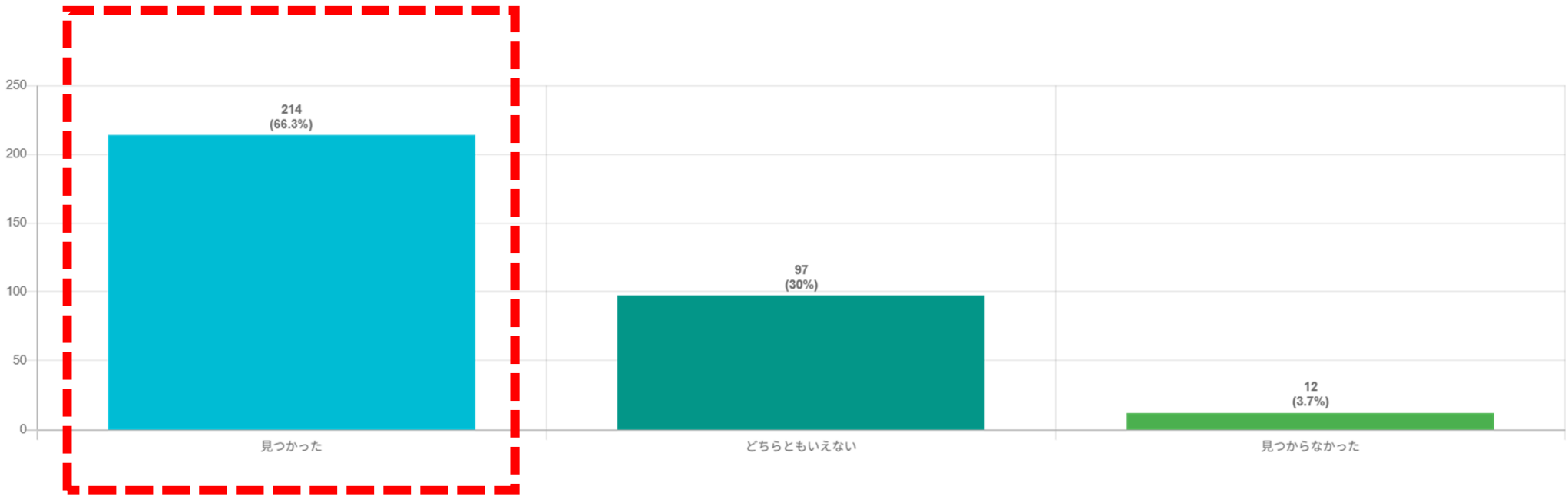
Q5 ⑤ぼうさいこくたいに参加して防災意識は高まりましたか。  
回答数：326 未回答：2



**とても高まったが最多  
90%以上が「高まった」と回答**



Q6 ⑥ぼうさいこくたいに参加して連携してみたい人や団体は見つかりましたか。  
回答数：322 未回答：6



**見つかったが最多**



## ぼうさいこくたいの目指すもの

- 国民の防災意識の向上、様々な防災活動への理解促進
- 防災活動に取り組む各界各層の連携の促進
- ぼうさいこくたい開催を契機とした防災活動の活性化、各地域の防災力の向上

## 第11回（2026年）ぼうさいこくたいは、鳥取県で開催（2025.9.7公表）

## 鳥取県開催の意義

- 鳥取県は、平成28年の鳥取県中部地震をはじめとする災害を経験。
- 平成28年の鳥取県中部地震を契機に、毎年、地域が主体となって、震災のマイナスをプラスに転じ、地域の未来を築いていくことを目的に「福高祭（ふっこうさい）」を実施する等、復旧・復興や防災の普及啓発に係る様々な活動を実施。こうした取組をぼうさいこくたいを通じて発信することは、国内外へ力強いメッセージとなる。

### 開催場所

エースパック未来中心、鳥取県立美術館周辺(倉吉市)

### 主催

内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議

### 開催時期

2026（令和8）年  
10月17日（土）・18日（日）

### 出展タイプ

セッション、ワークショップ、ブース展示、ポスター展示、屋外展示、オリジナル企画等

平成28年鳥取県中部地震  
崩壊した住家



福高祭  
バルーンリリースセレモニー



# 防災に関する世論調査（速報値）のポイント



## 全体概要

防災に係る普及啓発施策の立案・検討に当たり、防災に関する国民の意識を把握するため、不定期に調査を実施（前回調査は令和4年に実施）。令和6年1月1日発災の能登半島地震の影響等を踏まえた直近の国民の防災意識を把握することを目的として、今回は令和7年度に実施。

- 実施主体 内閣府政府広報室（所管大臣は内閣官房長官）
- 調査対象 18歳以上の日本国籍を有する者3,000人 有効回答数1,551人（回収率51.7%）
- 調査期間 令和7年8月21日～9月28日
- 調査方法 郵送法
- 調査項目 ①自然災害について ②地震対策について ③風水害対策について ④家庭で準備する備蓄について ⑤保険や共済の加入について ⑥防災情報について ⑦防災訓練について ⑧被災者や被災地に対する支援活動について ⑨自助、共助、公助に対する考え方について

※官邸指示により、今回から速報値を速やかに公表することとなり、年代別・地域別・性別データによるクロス集計等は確報段階で公表。

- スケジュール 10月17日（金）速報値公表  
12月24日（水）14時以降 報告書HP掲載（クロス集計等実施後の確定値）

## ①自然災害について（身近な人との話し合い等に関する設問（問1～問3））

- ・災害への対処などに関し、家族や身近な人とここ1～2年で話し合った有無について、「ある」（64%）。
- ・話し合わなかった理由としては、「きっかけがなかったから」（55.9%）、「すぐに連絡が取れると思うから」（22.5%）、「時間がなかったから」（18.6%）が上位。

## ②地震対策について（問4～問6）

- ・大地震に備えて取っている対策として、「足元灯や懐中電灯等の準備」（51.5%）、「食料・飲料水、医薬品等の準備」（45.8%）、「家具・家電などの固定」（37.5%）、「避難場所・避難経路を決めている」（36.6%）が上位。「防災訓練に積極的に参加している」（8.3%）、「対策を取っていない」は13.7%だった。前回調査より割合が下がった項目も見受けられる。（参考）令和4年調査：「足元灯や懐中電灯等の準備」（54.2%）、「防災訓練に積極的に参加している」（8.7%）

# 防災に関する世論調査（速報値）のポイント



## ③風水害対策について（問7）

- ・台風や大雨に備えて取っている対策として、「台風情報等を意識的に収集している」（72.9%）、「足元灯や懐中電灯等の準備」（54.5%）、「食料・飲料水、医薬品等の準備」（44.4%）、「避難場所・避難経路を決めている」（34.6%）が上位。「特に対策は取っていない」は11.2%だった。前回調査より割合が下がった項目も見受けられる。  
（参考）令和4年調査：「台風情報等を意識的に収集している」（77.2%）、「足元灯や懐中電灯等の準備」（58.0%）

## ④防災情報について（問13～問15）

※問8（家庭で準備する備蓄）、問9～問12（保険や共済の加入）については、特筆すべき点はなし

- ・防災に関する知識や情報の入手方法について、「テレビ」（80.8%）、「ラジオ」（41.1%）、「Twitter、FacebookなどのSNS」（38.9%）、「防災アプリ」（32.4%）、「防災情報のホームページ」（32.4%）、「新聞」（24.8%）が上位。  
⇒ 前回調査と同様の傾向

## ⑤防災訓練について（問16～問17）

- ・防災訓練の参加・見学経験について、「参加したことがある」（40.6%）、「見学したことがある」（4.3%）、「参加や見学したことはない」（38.6%）、「防災訓練が行われていることを知らなかった」（14.5%）となった。前回調査より、「参加したことがある」（43.6%）、「見学したことがある」（5.1%）と回答した割合が下がった。  
・「参加や見学したことはない」理由について、「具体的な日時・場所、申し込み方法がわからないから」（38.8%）、「時間がなかったから」（31.3%）、「関心や興味がなかったから」（17.1%）が上位。

## ⑥被災者や被災地に対する支援活動について（問18～問20）

- ・自然災害が起こった時に行いたい支援活動について、「被災者への義援金の寄付」（35.1%）、「復興を支援するための被災地への旅行や地場製品の購入」（30.8%）、「学校、職場、NPOなどの団体が行う災害ボランティア活動に参加」（19.7%）が上位。「特になし」は15.5%だった。  
・「災害ボランティア活動への参加を希望しない理由」として、「活動に際して不安だったから」（49.6%）、「時間が取れなかったから」（21.7%）、「費用がかかるから」（17.9%）が上位。

## ⑦自助、共助、公助に対する考え方について（問21）

- ・「自助に重点をおくべき」（29.7%）、「共助に重点をおくべき」（17.9%）、「公助に重点をおくべき」（9.1%）、「自助、共助、公助のバランスを取るべき」（40.7%）となった。  
⇒ 前回と同様の傾向